太宰管内志

豊後之九

國埼郡 下

一七五三番

和書門
類 二九六〇一 號 二〇二 函 八 架 二 冊

内閣文庫 和書

内閣文庫		
番號	和 29601	
冊數	82 (82)	
函號	176	44

国立公文書館
National Archives of Japan

豊後國九巻　國埼郡下　筑前人伊藤常足編録

明治十一年献本

○長安寺

六郷山諸勤行目録に、本山分惣山一屋山寺、本尊千手観音、阿弥陀三尊、不動尊、年中勤修正月會、(自正月一日至三日夜勤之)、修二月會、(自二月一日至同三日)、修舎利會在舞楽、(二月十五日勤之)、而座仁王會、(正月八日勤之)、大念佛、(自九月十三日至于同十五日三日夜勤之)、法華不断経、(十月十八日至廿日三日夜勤之)、同八座問答講天台大師供、(十一月廿四日勤之)、曼荼羅供、(季別月勤之)並往生講、毎月十五日観音講、毎十八日次勤初後入堂讀誦経典云々、(安貞二年の文なり)、文書に、僧應仁謹辞譲与重代相傳職并

田畠所従等事。在加礼河内云云。屋敷惣六箇所。所従云云右
當山惣領院主職代官并田畠所従等。應仁相傳知行之領職
也。而於今者化太子依為年来之夫妻相添本公験次第證文
限永年所譲与實也。全不可有他妨。但後者山口太子無異儀
所譲与仍有限佛神事者。守打札之文無懈怠可致勤行之状
如件。建長七年（歳次乙卯）。十月六日。屋山寺院主僧應仁判。六郷山
年代紀々。文永子年。九刕自筑前牛倒乱惣國牛死。依之六郷
山衆徒先達八百三十人。於弥山大般若三千部。仁王経一万
巻。而御祈祷相叶。施米一万石。青銅一万貫出之。ゟ六郷屋
山例講谷役配注文事。正月。夷山。長小野役。二月。両子山。九小
野。三月。大嶽山。見知。小城山。毘沙門挮。四月。小石屋山。別當御
役。横城山。五月。屋山。六月長岩屋。執行御役。辻小野。大谷。七月。
後山智恩寺。稲積。高山。懸樋。八月。黒土。大岩屋。椙山。九月十二
月。先達。十月。千燈山。清浄光寺。鞍懸。十一月。吉水。津波戸。間戸。
大折。長副。嘉元二年九月日。ゟ下諸松丸所早可令知行領
掌豊後國六郷山執行職并屋山長岩屋（除地）両子山（除財善次郎丸）横
城半分千燈山□田畠事。右當山執行職以下田畠諸松丸任
相傳令知行年貢課役任先例不可懈怠山内宜承知敢勿違
失故以下。暦應元年九月十八日。別當三會已講光澄判。ゟ
屋山寺拂茄礼川田數。一所五段御神田一所貳段彼岸田。云

云。一所三段修理田云云。一所五段新開朝拜田云云。一所貳
段虛空藏修正田云云。一所壱段鬼會田云云。一所七段云云。
一所一町八段長日大般若經龜田云云。一所壹段嶽御神田。
一所壹段山卧田。一所三段滑院主分。一所壹段烏頭前孫所
院主分一所壹段石田虛空藏修理田。一所壹段渋田院主分
一所壹段口之坪院主分。一所壹段念佛田楠木丸院主分。一
所壹段鐘搗田。一所壹段小加礼川。一所壹段古田。一所壱段
御佃田院主分。一所壹段山神田。一所貳段前田院主分一所
貳段云云。三町五段御料田貳斗三升米惣已上六町七段。長
享三年己酉霜月三日。六郷二十八山本寺目録之。正宗文中

山十箇寺金剛山長安寺云云。六郷山定額院主目録之。屋山
長安寺院主佛持院待徒之所廿五箇所于今在之。まゝ禁制
條々屋山一可專佛事祭礼事。付前々料田等無顛倒上者聊
陵夷事。一月次例講并諸法事等不可有怠慢事。付至無沙汰
輩者令没收所帯。可付堂社修理至無力之仁者可令追放事。
一修理料物等事堅固可取沙汰事。付毎年可遂勘定事。一山
上聖犯両輪坊跡事。近年背制止恣居住之由有其聞。太不可
然也。如前々。聖犯共以紀坊跡可有居住事。付當山竹木之事
寺用之外猥不可伐之事。一天下國家祈祷満山諸法會并六
供入躰可為前々儘事。右條々於違犯之族各可加柄械状如

件、天文五年十二月十三日、修理大夫判もて奉再興天台、別
院六郷山屋山法華三昧之御興所、大願主学頭法印豪意、惣
公文豪盛大徳、常泉坊祐仁大徳、峯坊豪順大徳、知足房盛順
大徳、豪重大徳、庵實房先大々先達、澄椿大徳、豪仁大徳、云云
權別當宗及公、大檀那、同女大施主等、權執行源統運公、助成
結縁衆、円盛大徳、祐乗大徳、豪桂大徳、智恩寺、盛秀大徳、西方
寺、豪宣大徳、田原越後守盃幸、妙源尼公女大施主乙、竹田津
隼人祐、右意趣者、山上安全、法命相續、利益人天、令法久住國
嫁縁カ成熟、皆令満足、祈所、天正四丙子三月吉日、細工元永宗月當
房代官藤右衛門尉、為西山妙騰大姉追善也、天明ノ記ニ、加礼

川村金剛山長安寺ハ、山門末島原領、本堂講堂寄附四石五斗、
境内竪二百五十七間、横百五十五間とあり、長安寺ニ寺百
姓といふ物四五軒ありて寺の左右ニまめり長安寺より
三丁計南ニ吉弘嘉兵衛の城跡あり、故ニ山の絶頂を城ノ辻
といふなどある、金剛山長安寺ハ、國東郡加礼川村内弥山
の半嶺八面山ともいふなりニあり、天台宗ニして六郷山ノ学頭とも、寺
ハ西向なり、庫裏本堂共ニ造つゞけニて、入五間横十三間許あり、本尊ハ不動尊な
り、西ノ方高田ノ海を望む、南方もべて見をろしのよき處なり、半丁上ニ講堂
あり、五間四面、南向ニして本尊ハ藥師、傍佛ハ觀世音なり、太郎天ノ社
此上ニ在リ、寺地、石垣高一丈四五尺、長二十間許もあるべし、南ニ

矢山ノ城跡あり。寺より西ノ麓よ八丁許。南ノ麓よ十八丁許。又北方よ十余丁下りて。天念寺よ至る。

○両子寺

六郷山諸勤行注進目録よ。末山分一両子寺。本尊薬師如来。同仙室千手観音。年中勤修正月會。自正月六日至同八日三日。一巻心経會。正月十三日。一日転読大般若會。請僧廿人。三ケ日夜法華不断経。自十月廿二日至同廿四日。同修三十講問答。請僧十八人。三童竪義。五問在之。季別曼陀羅供。天台大師供。十一月廿四日。佛名。十二月廿三日。月並勤薬師講。毎月八日。往生講。毎月十五日。観音講。毎月十八日。月次勤観音不断経供備。十日。尊勝陀羅尼。千手陀羅尼。各廿一反。薬師供。千手供。初後入堂講誦経典。最勝講。云云。中ノ六郷山定額院主目録よ。足曳山両子寺院主惣持院徒呂十二房中山ノ其一。中ノ天明年中六郷山寺院名簿よ。武蔵郷両子村両子寺日光山末寺。杵築領。一鎮守六所権現。一千手観音堂。一薬師堂。一走水観音堂。已上領主ノ寄附。院主惣持院。坊中ハ中之坊。大万坊。自常坊。真光坊。実相坊。財蓮坊。北之坊。南之坊。庵実坊。門之坊。寺領高四十石領主寄附。境内免許ノ地高七石壹斗四升余などあり。二子寺ハ二子山の下よして山懐よあり。入ッ六七間。横十七八間許ありて。東南ノ間よ向へり。前よ護摩堂あり。五間四面。両子の嶺まで寺より廿町もあるべし。寺より村ッ人家までの間又数丁あり。寺より講堂まで一丁半あり。講堂五間四面。講堂も寺

もかやぶきなり。寺の下に石の鳥居石の仁王あり。是より石階を登る左右に坊中あり。寺より講堂山王及権現の窟などゆく間に谷あり。六郷山の内にしては此寺最盛なり。今六郷山の惣録所なり。寺より未の方十丁むかふに走水の観音とてあり。堂は東北の間に向へり。観音の下より水の不絶走り出る所あり。旱魃にも減せず。堂に拝所あり。此處いさゝかなる森の内なり。其外此辺をへて野山なり。寺のまはりは木茂けり。寺より上の山は木立茂し。石屋又金毘羅宮のほとりことにおもげし。さて国分寺飛来辺より高田の町に出る人皆この走水の観音の傍をとおる事なり。

○大折山報恩寺

六郷山諸勤行注進目録に。本山方一大折山本尊聖観音。年中勤修正月會。正月五日。一夏九旬安居勤法華不断経。自十月一日至十月十三日三夜勤之。修八座問答講。月並観音講。毎月十八日。日次初後入堂讀誦経典。今始御祈祷長日観音経三十三巻讀之。また六郷山定額院主目録に。大折山報恩寺院主利益院衆徒三十六坊也などあり。此寺来縄郷上来縄村の西半嶺にあり。延宝六年島原殿より高四石五斗五合寄附あり。國人云。大折山今は應利山とかく。報恩寺は往昔天台宗にして。六郷山の流なりといへども。天正の乱後延宝年中。無方和尚再興の時。黄蘗派の禅宗となれり。豊前國廣壽山の末寺にして。寺は南向にして。入り四間。横六間の堂なり。本尊は釈迦如来なり。是より一丁余登りて講堂あり。二間半四面。本尊十一面観音なり。左は西

叡山を望み。右ハ長門海ニ臨む。又そこ登りて風除権現社あり。小き石祠なりと云へりき。麓より山上まで十余町あるべし。高田町より西方ニちかく見えてさがしき山なり。道をつゞらをりニ造りてのぼる山なり。肥前島原領なり。

○高山寺

六郷山諸勤行注進目録ニ。本山分一高山寺。本尊薬師如来。并観世音菩薩。高山去里数里。年中勤修正月八日會。正月八日勤之。日次勤初後入室讀誦経典云云。また六郷山定額院主目録ニ。高山養老寺。院主室宅院徒四十五房 同徒山廿五ヶ所。など見えたり。さて高山ハ。多加也万と訓べて山名なり。又院主目録ニ。西叡山良叡山円徳寺と云り見えたり。國人云。西叡山の跡ハ田染郷横峯村山上ニあり。

頂上ニ今も石のほこら残れり。是より東一丁許ニ高山寺の礎のこれるを。山上聊くだりなる處ニて東南ニ向へり。處なり此處ニ人間の隠水と云流あり。穴中二間許入て奥ニ流あり。本も末も見えぬ水なり。穴ハ這て入といへりき。る穴なり。

○間戸寺

六郷山諸勤行注進目録ニ。本山分一間戸石屋。本尊薬師如来。惣中勤修正月會。正月八日勤。一夏九旬安居勤法華不断経。自十月十二日至二十四日三日勤之。月並勤薬師講。毎月八日勤之。日次初後入堂讀誦経云云。六郷山定額院主目録ニ。控岩山間戸寺。院主高山徒。又傳乗寺徒呂也。云云などあり。さて六郷廿八山本末目録ニ。

八本山分末寺西蓮山尚戸寺とあり。此寺ノ事いまた考へず。
田澁郷ノ内歟。

○智恩寺

弘安八年豊後國田代帳注進目録に。國崎郡云々来縄郷三百町宇佐宮領。本郷并余名二百七十七町。郷司来縄妙性房智恩寺。院主管範神官名等。云々田渋郷九十余云々。糸永名三十町。地頭肥前國御家人曽祢崎淡路法橋慶増とあり。六郷山諸勤行注進目録に。本山分一智恩寺。本尊藥師如来。穐中勤修正月會。正月五日。一夏九旬安居勤月並藥師講。毎月八日。日次勤初後入堂讀誦経典云々。六郷山定額院主目録に。都甲荘為父山智恩寺。院主傳乗寺ノ徒云々などあり。國人云為父山智恩寺ハ来縄郷智恩寺村にあり。天台宗。講堂ハ溪流より一町登て小山陵夷の側岩頂にあり。南向にして。入三間に。横四間の堂あり。本尊ハ藥師如来。傍佛ハ日光月光なり。又十二神将あり。かくて左方南向に山神の小石祠あり。九尺四方ノ拜殿あり。又其左に權現ノ社あり。南向なり。又右に一丁下ツて本寺あり。入三間に。横四間の堂なり。本尊ハ観世音菩薩なり。講堂と山ノ神との間に石塔あり。土人此塔を父塔と云。六郷六八山本寺目録にハ。本山八ヶ寺良藥山智恩寺とあり。或人云為父山ハ。都甲荘なれバ良藥山とハ別なりといへり。いぶかあらん。

○鞍懸ノ神宮寺

六郷廿八山本寺目録序分本山八箇寺鞍懸山神宮寺。六郷山諸勤行注進目録に本山分一鞍懸ノ石屋云云などあり。天明年中六郷山寺院名簿に神宮寺（一説に小岩屋）在糸永村とあり。此寺ノ事いまだ考へず。大友家老臣田原親貫鞍懸ノ城にたてこもる事。委く隠徳太平記六十三巻に見えたり。

○大谷寺

六郷山諸勤行注進目録に本山分一大谷寺。本尊十一面観世音菩薩。年中ノ勤修正月會。正月四日勤之。大念佛。二季彼岸。不断経供花。六月十八日夜一日勤之。一法華不断経十月。廿三日勤之。四月並勤観音経講。毎月日。十八日並勤初後入堂讀誦経典云云。弘安七年異國降伏巻珠目録に本山分大谷寺奉講讀仁王般若経一百座。毎季奉讀誦観音経一千巻。奉誦尊勝陀羅尼一千反。奉讀誦寿命経一千巻云云。六郷山定額院主目録に西塔山大谷寺。正明院ノ徒十二房などあり。六郷廿八山本山分末寺目録に小渓山大谷寺とあり。又弥山ノ文書に就辻大谷寺□村従田北殿放火

之由。只今其聞候。令注進候。事実候哉。太六郷満山。前代未聞候。仍任旧規之旨。於當山佛歎降伏不存余儀候。然者至満若衆徒行存則申催候。此由為御分別申入候。所々至御役所。右旨趣不可有緩々由。可被仰付候。不可有御油断候。彼山領之事如御存知六之郷荘辻々谷々之霊窟御坐候條。□此之砌山上以先例可申達之段□□記問御坐候条。不及撰良辰来従十六日可任古法候。此由為御存知候。恐々謹言。七月十一日。斉藤山城寺殿。清田伊豆入道殿。岳岡掃部助殿。野田市助殿。綾部兵部少輔殿。御宿所豪意とあり。此寺ノ事いまだ考へず。

○傳乗寺

六郷山諸勤行注進目録に、本山分一不動、石屋、本尊不動尊五丈、石身深山真明如来、自作、六郷二十八山本寺目録に、亭分八箇寺馬城山傳乗寺とあり、又六郷山定額院主目録に、馬城山傳乗寺、号修善寺、衆徒三十六坊ともあり、國人云、馬城山傳乗寺ハ田染郷真木村平地なり、（田染郷内なり、）本堂のミ残れり、入ッ五間横十間許もあるべし、不動威徳明王相殿なり、

○十恩寺

六郷山諸勤行注進目録に、本山分一喜久山、本尊丈六、皆色阿弥陀如来、丈六不動尊、同大威徳、種々勤等中絶云云、六郷山定額院主目録に、聞山十恩寺、院主高山、徒、又傳乗寺、徒呂也などあり、此寺事いまだ考へず、高山ハ田染郷横峰村にあり、

○天念寺

六郷山諸勤行注進目録に、中山分一長石屋、本尊観世音菩薩、年中勤修正月會、（自正月四日至六日三夜勤之、）修二月會、（自二月一日至同三日三日夜勤之、）大念佛、（自十一月一日至三日勤之、）一夏九旬之間不断供花、（七月十五日、）布薩一日轉讀大般若會、（請僧廿人、十月五日勤之、）法華不断経、（自十月廿八日、至同卅日、三夜勤之、）修問答三十講、（請僧廿人、）天台大師供、（十一月廿四日、）佛名経、（十二月七日勤之、）月並勤薬師講、（毎月八日、）観音講、（毎月十八日、）日次初後入堂讀誦経

典不動行法一座。薬師経十二巻。観音経三十巻云云。弘安七
年異國降伏巻數目録ニ。中山分長石屋奉勤修七箇日不動ノ
行法。毎月。奉轉讀大般若経一部。毎季。奉講讀仁王経一百座。毎季。奉
讀誦觀世音経一千巻。奉讀法華八講問答講云云。六郷山定
額院主目録ニ。長石屋山天念寺。院主明禅院徒呂十二房也。
るどあり。天明年中六郷山寺院名簿ニ。長岩屋村長岩屋山
天念寺。山門末。島領。一本堂観音。一六所權現。寄附五石八斗。
山林境内百間四方とあり。天念寺ハ都甲庄長石屋村ニあ
て。南向ニして七間半ノ堂あり。其前ニ谷川あり。今ノ本尊ハ不
動明王なり。寺ノ後ハ岩壁なり。一方ニ六所權現の社あり。岩

洞ノ下ニ造リ掛ケたり。神右ニ並て講堂あり。南向。入三間。平四間の
堂なり。本尊ハ観世音菩薩。九州三十三所観音霊場の一なり。薬師佛。傍佛ハ
日光月光十二神将なり。堂ノ前ニ車橋あり。橋の西傍ニ水ノ中
より二間余。高さ四間余の石たてり。是ニ不動ノ像を切付ケ爲
て。左右ニコンガラセイタカの二佛あり。此辺岩下川ノ北ニ
小石祠そこぞくあり。此辺の水西を指て高田ノ方ニ流れ出
るなり。旧記ニ。長石屋山龍門院天念とあり。龍門窟と云ハ
寺より東北の間一丁許ニあり。南向の岩窟ニ大師
堂二ッあり。弘法像を安置き。其間ニ小二子と云物あり。東向
ニして阿弥陀の像あり。人間の作なり。此辺すべて大岩の
多き處なり。天念寺より十八丁南ニ登れバ長安寺なり。天
念寺より一丁余下れバ左ノ方ニ古塔三ッ四ッあり。其内高さ八
九尺許ニして二ッかさなりゐる塔あり。上ニ嘉應二年伍
月とありて。其外字ハ詳ならず。其下棹石ニ忍辱上人。円豪

大徳、快円大徳、円住大徳、円然大徳とあり。其外の文字ハ詳ならず。

○本松院

六郷山諸勤行注進目録ニ。中山分一黒土石屋。本尊馬頭観音。仙室年中勤修正月會。（正月四日。）観音講。（毎月十八日勤之。）月次勤初後入堂讀誦経典云云。一四王石屋本尊四天王。仙室年中勤修正月會。（正月三日。）毘沙門講。（毎月三日勤之。）初後入堂讀誦経典。今始御祈禱長日毘沙門行法一座云云。六郷二十八山本末目録ニ。正宗分中山十箇寺。黒土山本松房云云などあり。（定額院主目録ニ本松院とあり。）國人云。本松院ハ真玉庄黒土村ニありて。今ハ小菴となれりといふ。此寺ノ事なほよく考ふべし。

○無動寺

六郷山諸勤行注進目録ニ。中山分一小石屋山。本尊薬師如来。年中勤修。（自正月六日。至同八日勤之。）修二月會。（自二月一日。至同三日。）一夏九旬不断供。七月十五日。布薩一日。轉讀大般若會。（十月十五日。請僧廿人。）修八座問答講。（三日夜。）法華不断経。（自十月廿三日。至同廿五日勤之。）天台大師供。（十一月廿四日。）勤佛名。（十二月廿日勤之。）月次勤薬師講。（毎月八日。）往生講。（毎月十五日。）百座仁王講。（毎月一日。）一万巻心経會。（毎月一日。）日次勤初後入堂讀誦経典云云。弘安七年異敵降伏祈禱巻數目録ニ。中山分小石屋奉勤修七日不動行法。（毎月。）奉轉讀大般若経一部。（毎季。）奉讀誦観音経一千反。奉講讀仁王経一百座。（毎季。）奉誦尊勝陀羅尼一

千文。奉講法華八講問答講云々。六郷二十八山本寺目録ニ。正宗分中山十箇寺。小岩屋山無動寺云々。六郷山定額院主目録ニ。小岩屋山無動寺。院主本松院従呂十二房也。（私曰六郷山什物在此寺。）天明年中六郷山寺院名簿ニ。黒土村小岩屋山無動寺、島原領山門末。一本堂一堂社三宇。一講堂寄附七段七畝。山林境内竪百七十間。横五十間ほどあり。国人云。無動寺ハ真玉庄下黒土村ニあり。天台宗ニして。（入五間。横十二間。）の堂あり。南向ニして本尊ハ不動明王なり。後ニ峻岩あり。前ニ小流あり。向方ニ数多の岩峰あり。左方高處ニ観音堂あり。（入一間。横一間半。）本尊ハ馬頭観音なり。講堂ハ十丁餘下流ニあり。

て（入三間。横四間。）南向なり。本尊ハ薬師如来。傍佛ハ弥勒と観音となり。（権現の事ハ七巻にいへり。）

○應暦寺

六郷山諸勤行注進目録ニ。中山分一大石屋。本尊千手観世音菩薩。（深山。）年中勤修正月會。（正月五日。）一夏九旬安居勤観音講。（毎月十八日。）初後入堂読誦経典云々。六郷二十八山本寺目録ニ。正宗分中山十箇寺大岩屋山應暦寺。六郷山定額院主目録ニ。大岩屋山。院主金剛院。徒廿五ヶ所寺有多室院云々。天明年中六郷山寺院名簿ニ。國崎郷大岩屋村應暦寺。延岡領青蓮末。一鎮守四所権現。岩屋。一千手観音堂。一妙見岩屋。一十一

面観音岩屋。一不動堂。云云などあり。國人云。此寺ハ真玉庄大岩屋村にあり。溪流より一町余登て寺あり。入四間。横六間の堂なり。南向にして。本尊ハ不動明王なり。前後に松山あり。是より一町余登て講堂あり。入三間に。横四間堂なり。是も南向にして。本尊ハ正観音。又一丁登て岩洞に千手観音の堂あり。路辺に諸石佛多し。凡て林木欝々あり。常足按ずるに。應暦寺の旧跡と云ものハ今寺より三丁許南にあり。其跡廣し。そこの川おくにある不動ハ古の講堂の本尊なりと云。正月五日の鬼走りも昔ハ講堂の前にて行へりしと云。昔の講堂の跡もすこし高處にあり。岩屋岳ハ今寺より北南上にあり。さて六郷山ハすべて二十一年目に入峯あり。其時此山に来りて。姨ヶ懐(フトコロ)とて帯をとき。ふろなどに入て美食をする事をもゆるす處なり。さて此寺の中興ハ登慶と云人なり。其已前ハ中絶しありしを。此人の時寺を今地に造れりと云。登慶ハ両子寺の順慶法印の弟子なり。

○霊仙寺

六郷山諸勤行注進目録に。中山分一夷石屋。本尊千手観世音菩薩。年中勤修正月會。自正月一日。至同三日。修二月會。自二月一日。至同三日三夜勤之。二季彼岸大念佛。一夏九旬不断供花。一日轉讀大般若會。九月九日。請僧廿人。小立義修八座問答講。請僧八人。三箇夜法華不断経。自七月十八日。至同廿日勤之。天台大師供。十一月廿四日。佛名経。十二月廿五日。月並勤観音講。毎月十八日。一万巻心経會。毎月一日。日次勤初後入堂讀誦経典最勝講一座。観音経卅三巻。云云。異國降伏御祈祷巻數目録に。中山分夷山。奉勤修七箇日不動行法。毎月。奉讀誦大般若経

一部。每季奉讀講仁王経一百座。奉讀誦觀音経一千巻。奉誦尊
勝陀羅尼一千反。奉講法花八講問答講云々。六郷二十八山
本寺目録也。流通分末山十箇寺。夷山霊仙寺云々。六郷山定
額院主目録也。吉婆蘇山霊仙寺。本堂也。卅八箇所。第一云々。
院主根本院。徒十二房也云々。文書也延暦寺政所下。六郷中
山住僧神源所可早停止円力十力化印等濫妨任相傳證文
者。神源令領掌田畠事。右円畠領掌之道依證文道理而円力
十力紀印等指不帯一紙之證文巧者諸無道致濫妨云々事。
實不穏便次第也。早停止彼等濫妨任證文等之理。可令領掌
神源之状如件。所宜承知勿違失以下。建久九年四月日。修理
別當法眼和尚位。書判。上座大法師。書判。寺主大法師。書判。以上三人也云々。
小寺主法師隆永。都維那大法師。書判。云々下可令早任次第相
承之旨安堵領掌豊後國六郷山夷山院主職事。右件院主職
者卿秀次第相傳當知行無相違之條。公家武家公験等明白
也。者任道理可令卿秀安堵領掌有限於佛神事并年貢濟物
者。守先例可致其沙汰之状如件。正平十三年三月十一日。藤
原登法師九。書判。混本院霊仙寺縁起也。豊後州國崎郡香々地
莊吉婆蘇山霊仙寺者。往昔仁聞菩薩所開闢之霊場而。六郷
二十八刹之内其一也焉。近古以来遭戎馬之変。神祠佛閣俱
廃。柱礎僅存數個房院至徒有其名而失其実。視者靡不為之

嘆息也。于茲村之長有隈井吉連、発善心促傭夫課村民経歳月而鑿開巌窟、仁聞菩薩手所刻千手大悲尊像暨諸天薩埵之尊軀、安置于其中。年々相継至本堂鐘楼根本実相二院。次第営復而長列叡山之末刹也。云云于時宝永七寅之応鐘吉旦。代霊仙住持豪泉法印化蔵経自序自疏河陽大宝山派公松巌採觚於婆蘇嶠之山観室。とある天明年中六郷山寺院名簿に。夷村霊仙寺青蓮院末。杵築領。合除地二町三段六畝拾一歩。山王宮除地一段六畝廿歩。大力坊右山王宮司今井薬師堂境内除地一畝などあり。霊仙寺は香地庄夷村にあり。□向にして。入五間に。横八間の堂あり。本尊は不動明王なて。寺前に小流あり。向ひにさがしき岩の高く聳へさるいくつと云数をしらず。又後方より大岩あり。講堂は半町上流にあり。入三間に。横四間の堂なり。本尊は千手観音なり。傍佛吉祥なり。左に大師堂あり。皆岩洞なり。不動と龍王とは右方にあり。各小舎あり。すべて堂前に杉の古木多し。此寺に古文書数通あり。此寺の事は七巻権現の件に聊いへり。

○千燈寺

六郷山諸勤行注進目録に。中山分一千燈山石屋。自正月二日至同四月三日修二月會。自二月一日至同三月三日勤之。一夏九旬不断経供米七月十五日、布薩三箇日夜法華不断経。自十月廿五日至同廿七日勤之。大師供。十一

月廿四日。同八座問答講。請僧八人。佛名。十二月廿四日。一日轉讀大般若一部。
請僧廿人。一万巻経會。毎月一日勤之。月並勤藥師講。毎月八日。観音講。十八日。不
動講。廿八日。次勤観世音不断経。供僧十人。初後夜入堂讀誦経典
云云。一五石屋秘所本尊不動尊。深山。仙室云云。於此五箇秘所
苛異國降伏之時。人聞菩薩有五人同行。五壇法修行之一岩
殿。石屋本尊藥師如来。深山。年中勤季別月並長日勤等有之。一
枕石屋人聞菩薩御枕有之。一銚子石屋人聞菩薩之御銚子
有之。一瀧本石屋人聞菩薩御自筆如法経御奉納。此石屋。依
之一乗菩提峯云。異國降伏御祈祷巻數目録よ。千燈山奉勤
修七箇日。不動行法。毎月。奉講讀仁王経一百座。毎月。奉讀誦大般
若経一部。毎季。奉讀誦観音経一千巻。奉講法花八講。問答講。
云云。六郷二十八山本寺目録よ。正宗分中山十箇寺。補陀落
山千燈寺云云。六郷山定額院主目録よ。補陀落山千燈寺。嶺
松院徒呂三十八箇所。權現観音大講堂高野五岩屋千灯下
拂。房也。来死海藥師伊美平等寺伊美万徳寺神宮寺也など見
えたり。さて豊鐘善鳴録五巻よ。云云聞又牽嚴満等登伊美。
五智窟行不動法。時東北海龍王欽行其徳。献燈一千許。縁其
靈應寺名千燈。其号補陀落山。若以安千手眼像也。其年十月
急六日。於千燈之窟入定封塔以三撈石。聞ハ仁聞菩薩の事なり。天明年
中六郷山寺院名簿よ。千燈村千燈寺。杵築領。山門末。仁聞入

寂之地。一本堂千手。一六所権現。一山王権現。一薬師岩屋。一
大講堂。一地主権現。一大師堂。一尻付岩屋。一普賢岩屋。一大
不動石屋。一奥院不動石屋。一退転牛王石屋。一小不動石屋。
一八大龍王石屋。祭料赦免地田高一石二斗。権現寄附畑高
二石八升余。此外藪坪免地有之。千燈寺末平等寺。在田野村無住。全
光寺。同断。真覚寺。同断。ともあり。千燈寺伊美庄千燈寺村にあり。
北麓より登る事八丁にして寺あり。南向。入五間に。横八間
の堂あり。両峯の間にあり。本尊ハ不動明王なり。講堂ハ聊
高処にありて。是も南向なり。入三間。横四間。戸口一間。泥壁なり本尊ハ弥勒
菩薩。傍佛ハ観音なり。此辺杉生茂れり。一丁余登て六所権現社あ

り。此方一丁許上に大師堂あり。其左右に古き五輪塔あり。
いくつと云数をしらず。定額目録に。高野とあるハ此処な
り。寺下に末寺西の坊あり。千燈寺村中に一寺あり。下拂坊
と云。西方寺より南山を越て千燈寺村にゆく処。左方高き
岩窟に仏像をおく。是を西不動と云。夫より千燈寺村
を東北に下りて道の傍。左方に尻付薬師とて岩窟に堂あり。
て古仏を多く入れあり。皆木像なり。入間の作なりと云。西
不動も尻付も五窟内なり。西不動の辺に小不動太郎天の二
窟あり。奥院を加へて五窟なり。高野より南岩戸寺にゆく
道山の絶頂に奥院五智窟と云物あり。岩窟東に向へり。中
に不動堂あり。拝所瓦葺なり。道より半丁許岩をつたひて
這登る処なり。こゝの道より数丁谷に
下りて岩戸寺方にゆく道あり。

○大嶽神宮寺

六郷山諸勤行注進目録に。中山分一大嶽寺社。本尊薬師如

来。高山。豊後國之鎮守也。年中勤修正月會。自正月六日至同八月日夜勤之。一万巻心経會。毎月一日。修二月會。自二月一日至同三日。舎利會。二月十五日。一夏九旬不断供花。三箇日夜法華不断経。自十月十七日至同十九日勤之。同修八座問答講。請僧八人。御霊會。十一月十三日。月並薬師講。毎月八日。法華會。十一月廿四日。日次勤初後入堂講誦経典。観音経卅三巻云々。六郷二十八山本寺目録ニ。流通分末山十ケ寺。大嶽山神宮寺云々。六郷山定額院主目録ニ。大嶽山神宮寺。院主成就院、衆徒十六房八箇所ノ宮云々。天明年中六郷山寺院名簿ニ。國崎郷横手村大嶽山神宮寺、杵築領。山門末。一堂ニ除地高一石一斗などあり。大嶽山神宮寺ハ人家より八丁西よりして山懐ニあり。寺ハ南向ニして。入ッ五間餘。横十二間あり。講堂ハ寺ニて上半丁ニあり。其處ニ薬師堂観音堂あり。南向なり。神宮事ハ委く七巻ニ云て。

○小城寺

六郷山諸勤行注進目録ニ。末山分一小城寺。本尊六観世音菩薩。年中勤。自正月三日至同五日日夜勤之。一日轉読一千巻観音経。自正月十八日至廿六日。同修八座問答講。請僧八人。日次勤観音経三十三巻。初後入堂読誦経典云々。弘安七年巻数目録ニ。末山分小城山奉勤修七ケ日不動行法。毎月。奉轉読大般若経一部。毎季。奉講仁王経一百座。毎季。奉読誦観音経一千巻。奉誦尊勝陀羅尼。各又。奉

講法花問答講云云。六郷二十八山本寺目録に。流通分東山十箇寺。小城山宝命寺云云とあり。杵築領安岐村にあり。此寺ノ事いまだ考へず。

○西方寺

六郷山諸勤行注進目録に。中山分一西方寺。本尊延命観世音菩薩。年中勤修正月會（正月五日）。二季彼岸念佛會。一夏九旬不断供花。月次観音講（毎月十八日）。日次勤祈五入堂讀誦経典云云。

棟札銘文に。奉造建六郷山之内清浄光寺本堂一宇。天下泰平。國家安全。御願主義長公。御武運長久。付當院主祐範延命。右意趣如件。永正十酉歳八月吉日。寺務眞光寺。大工[illegible]云々

小工茂左衛門。此棟札ハうつしなり。本書ハ天明三年の火災に焼失せりと云。六郷山定額院主目録に。西方山清浄光寺。院主浄光院徒十二坊云云。

天明年中六郷山寺院名簿に。西方寺村清浄光寺。杵築領。山門正覚院末寺。一鎮守六所権現。一本堂。一不動堂。一阿弥陀堂。寺内除地一段廿九歩。高七斗一合。權現寄附七段六畝廿二歩半。高二石三斗一合七勺などあり。清浄光寺ハ竹田津、内西方寺村にあり。寺ハ西向にして本尊不動尊なり。是より又東に登る事一丁にして講堂あり。南向にして四間四面なり。本尊ハ延命観音なり。講堂ノ傍に鐘楼あり。講堂のうらに薬師堂あり。其傍に三十三所。八十八箇所。と云物を造れり。

六所権現の事ハ委く七巻よ云り。今ノ寺ハ庫裡本堂造つゞけよして入ノ五間平ラ十三間あり。

○横城東光寺

六郷二十八山本寺目録よ。正宗分中山十箇寺。横城山東光寺。六郷山定額院主目録よ。横城山東光寺。院主真乗院。徒十二房。天明年中六郷山寺院名簿よ。安岐郷横城東光寺。杵築領。山門末。一六所権現。一本堂薬師十二神将。一堂三ケ所。附田畑五段二十九歩。高二石九斗四升一合。山林三町四方。東光寺末寺。西本村覚安寺などあり。此寺の事いまだ考へず。

○見地東光寺

六郷山諸勤行注進目録よ。流通分末山十箇寺。見地山東光寺云々とあり。見地山東光寺ハ□郷見地村よあり。川端よして。聊高き處よ。昔の名残とて阿弥陀堂有て。佛像安置せり。堂ハ東向よして。三間四面許なり。土かやぶきなり。古塔の類ハ聊も残らず。又中田村よ東光寺とて禅寺のあるハ。六郷山の派よハあらず。

文殊仙寺

六郷山諸勤行注進目録よ。流通分末山十箇寺。峨嵋山文殊仙寺云々。彦山來歴記云。役小角云々久居印度。旋帰支那。登五臺山而拝文殊。文殊問曰我欲入日域而引導労生。有似此山勝所否。角對曰有豊之後州國崎郡霊鷲山者。不下五臺

嵋大士遊彼我危従猊駕大士曰先哲行而待吾到小角許詣
飛騰虚空到彼山鑿開岩崛而待大士一夕小角所養白犬頻
吠不止出見之大士来應也乃建一字名峨眉山文殊仙寺時
嵯峨帝弘仁十二年辛丑也豊鐘善鳴録五巻に釈寂州不測
何許人也夙稟台教該渉三学嘗住峨嵋山日久矣昔役小角
遊支那五臺謁吉祥大士奉安于此州到此已来欽慕前業立
行精苦漸発智證一朝忽感吉祥尊放光降臨室中即大治元
年三月二十五日也州弥壮聖蹟誘導州民云云洪鐘銘に敬
白文珠仙生身霊地奉鋳鐘一口右本鐘者破毀已後累歳□
積疎音春秋霜深爰或聚諸檀之劵加或以勧進之施[illegible]所鋳

改也仰願報徴少同達男女福壽大望以薄□功薄果感佛果
乃至平等千界大千界卿音推鐘善声沙界大沙界播息以人
法□云尓應永四年丁丑三月十七日大願主□□善栄敬白
高田大工藤原貞正推鐘告四方誰有大法若著為我解脱身
當為奴僕六郷山定額院主目録に峨嵋山文殊仙寺院主円
粒院所徒二十五ヶ所内本堂文珠普賢王子権現役行者な
ぞあり文珠仙寺ハ□郷掃村内よりして麓より十八丁あ
る寺より絶頂まで十八丁ばかりあり又寺ハ辰巳方に向ひて谷上にあり叡
山正覚院末寺なり高五石の寺産あり本堂庫裡造續けて
入り五間余にして横十七八間あり寺上に文殊堂あり間五横

七間よしてやぶきなり。半ハ岩堀なり。此堂、奥岩堀の處よそゝ[illegible]
落る泉あり。是を文珠泉と云。此堂、南、側よ行者堂あり。入二間。横
九尺。何れも東向なり。行者堂ハかやぶきなり。文珠堂行者堂惣門この三
區ハ杵築領主より造営あり。又南よ善賢堂あり。五間四面。北向。此
處よ小角暫く止まれりと云。文珠堂、上よ六所權現堂あり。
九尺四方。東北の間よ向へり。又南よ八大龍王、社あり。東北よ向へり。下よ
り石階百塀あり。鳥居ハ六所權現、正面よあり。鳥居より權現まで石階を登る事二百
七十段。寺の東北よ鐘樓あり。寺地前後よ岩壁多くして。甚珍
らしき處なり。人家三四軒あり。正面、山よ立る岩壁の間より海を
見る處なり。此寺昔ハ今、寺地より八丁西南の山奥よ在て。

安養寺と云へるしを。役、行者の時今、地よ移せりと云。又正
面より聊南よ掛りて七八丁許よ高山あり。大友家の砦の
跡なりと云。寺より一丁北の岩堀よ十王堂あり。入一間半。平二間。
石よて十王の像を刻めり。其内二軀ハ背面よ銘あり。永和
五己未二月廿四日。大願主道雲上座とあり。今一ッハ奉造立□
六王汝弥本心造之。永和第二戊午八月四日とあり。

○岩戸寺

六郷二十八山本寺目録よ。流通分末山十箇寺。石立山岩戸
寺云云。六郷山定額院主目録よ。天、岩戸寺。徒十二房、岩戸寺
三十佛。三十番神。豊鐘善鳴録五巻よ。釈明賢者仁聞菩薩、神

足也。性資強健力行抜群。一時帝詔求聞公所奉不動像。聞乃
命賢賚其像。通使朝廷入京朝謁紫殿。時門外所寘之笈飛到
賢側。賢乃解笈進其像。帝拜瞻之。勅侍臣曰。此像威霊天下無
比。唯留風俗宜其還此矣。賢乃還豊後命遂居石立山岩戸等。
守聞之先業而終焉。是以世人称其像曰無風俗不動也とあ
る。此像今ハ二子寺にあり。一説に杵築領とあり。天明年中六郷山寺院
名簿に。國埼郷岩戸村岩戸寺。公領。山門末。一本堂薬師。一講
堂弥陀。一末社四。御免地高二石七斗一升。山林二町四方な
どあり。岩戸寺村岩戸寺ハ辰巳に向へり。一丁後に講堂あり。
四間四面なり。本尊薬師佛なり。鬼會ハ正月七日にあり。六
所権現。相殿客人大明神。南向なり。鳥居ノ正面にある八薬師
なり。参九ハ権現なり。拝殿二間四面許なり。石ノ二王あり。元
文二年関東より岩戸寺村ノ内。寺内一段五畝十一歩。高一石
二斗四升五合九勺御寄附あり。其状ハ。豊島文右エ門より大門坊に当る。又同
村内。開発地一段八畝五歩半。高一石九斗一合五勺。六所権
現へ御寄附あり。此状ハ六所権現支配人に当る。当村内にある末菴新徳ノ
阿弥堂。小屋園ノ金剛童子。毘沙門三十佛馬場に古杉あり。前
に谷川あり。川より社まで七八十間あり。鳥居ノ前に石ノ二王あり。東方なる
が背面に。文明十年云云。豊後國六郷山岩戸寺云云。十月十
二日とあり。此外文字あれども詳ならず。

○成佛寺

六郷二十八山本寺目録に、流通分末山十箇寺。龍下山成佛寺と云々。六郷山定額院主目録に、成佛寺、院主、文珠七五箇所境内共一也。天明年中六郷山寺院名簿に、國崎郷成佛村成佛寺。杵築領。山門末。一本堂阿弥陀。一鎮守妙見。一講堂。一観音堂二。一虚空蔵堂。一佛供田二畝。一芋尾観音堂。一清瀧、観音堂。一内畑観音堂など見えたり。成佛寺ハ飛来、荘成佛村にあり。南向にして村中にあり。前に谷川あり。講堂ハ半町許西にあり。土壁なり。寺ハ入五間。平十二間あり。本堂庫裡同棟なり。杵築領主より佛餉田高七斗五升。其外藪坪寄附あり。妙見ハ寺と講堂との間の上二丁にあり。石祠なり。阿弥陀堂ハ寺ノ上にあり。入三間。長五間。宴日六月十四日。講堂ハ七月十七日なり。昔ハ講堂も寺より東下流にありしと云。文珠仙寺より南ノ山を越て。成佛にゆく所右のおくに清瀧の観音とてあり。そこに聊なる瀧あり。観音堂ハ窟中にあり。自然の石佛千軀ありと云。此観音にも領主より竹藪廿一歩寄附あり。此外芋尾内畑らの観音にも佛餉田竹藪聊づつ寄附あり。

○行入寺

六郷二十八山本寺目録に。流通分末山十箇寺参社行入寺と云々。六郷山定額院主目録に。蜷河山行入寺。院主成就院行徒六ヶ所と云々。天明年中六郷山寺院名簿に。國崎郷行入村参社山行入寺。杵築領。山門末。一堂二。除地高一石一斗など

あり。行入寺ハ村ノ中にあり。前に谷川あり。道筋もあり。流よ
り半町許上（西北の間）に寺あり。東南の間に向へり。是昔の講堂のあとなり。
寺より一丁許西南ノ道ノ上に不動堂あり。一間四面許。寺ハ入三間。
横六間許なり。昔ノ寺地ハ今ノ寺より東北ノ方近きに在て。諸堂
の跡いちじるし。

○清岩寺

六郷二十八山本寺目録に。流通分末山十箇寺。懸樋山清岩
寺云云。天明年中六郷山寺院名簿に。両子寺ノ末寺。安岐郷懸
樋村懸樋山西岸寺。杵築領。六所権現宮除地三畝余などあ
る。此寺ノ事いまだ考へず。寺院名簿に。掛田山観正寺号清岩寺。従昌十二箇所。又別而成久ニ別山

立とある是と同寺なるか。なほよく考ふべし。

○正光寺

同書に。本山分末寺轆轤山正光寺云云とあり。此寺ノ事もい
まだ考へず。六郷山定額院主目録に。飛車山轆轤寺とある
ハ。正光寺を云か。重ねて考ふべし。

○妙覚寺

同書に。本山分末寺妙覚寺とあり。六郷山定額院主目録に。
都甲ノ荘麟治山妙覚寺。院主宝宅院高山寺ノ徒弓とあり。此寺ノ
事いまだ考へず。

○来迎寺

同書に本山分末寺。海見山来迎寺之云。六郷山定額院主目録に。無量山来迎寺。院主宝宅院高山末徒也。高田芝崎永水薬師堂草地共十二ヶ所。當玉ノ井為山号。其後如此号是則海見。とあり。此寺の事いまだ考へず。高田の辺にあるべきか。

○冨貴寺

同書に本山分末寺蓮花山冨貴寺之云。天明年中六郷山寺院名簿に。國崎郷落村冨貴寺。島原領。山門末一六所権現。一本堂。寄附高二石五斗。山林一丁四方なり。國人云。冨貴寺ハ田染郷蕗村にあり。寺ハ南向にして。入五間三間半。平本尊ハ不動尊なり。傍佛ハ。コンガラセイタカなり。前後に山あり。脚下て右高處に講堂あり。五間四面。本尊ハ阿弥陀佛。傍佛ハ観音勢至二佛なり。養老二年に榧木一本にて造りと云。是より一丁登て右ノ方に六所権現社あり。一間四方なり。杉林の中にあり。院主目録に。萬治山冨貴寺院主高山境地院内證文明白也。とある寺なるか。なほよく考ふべし。

○清瀧寺

同書に。本山分末寺。清瀧寺之云。六郷山院主目録に。清瀧山龍雲寺。院主傳乗寺。徒などあり。此寺の事いまだ考へず。後山の近所なるべきか。

○慈恩寺

同書に。本山分末寺。稲積山慈恩寺之云とあり。是ハ六郷山

定額院主目録に稲積山観世音寺院主傳乗寺徒也とある寺と同物なるかなおよく考ふべし六郷山諸勤行注進目録に本山分一不動石屋本尊不動尊五丈石身深山真明如来自作とあるもこゝなるべきか六郷山の縁起といふ物に稲積不動とあり不動石屋も慈恩寺も肩書に田染と阿ミ

○岩脇寺

同書に本山分末寺日野山岩脇寺云云六郷山定額院主目録に岩脇寺正等院徒六房有之天明年中寺院名簿に田染郷横峯村日野山岩脇寺島原領山門末一本尊不動十二天神今宮一奥院岩屋一六所権現一高山六所権現岩脇寺預一高山堂正観音同断一本堂阿弥陀観音十王岩脇寺末寺喜福寺在同村などあり國人云岩脇寺は田染郷横峯村にあり東向にして入一間半横六間の堂あり本尊は不動尊なり前に小流あり

○愛敬寺

同書に本山分末寺鳥目山愛敬寺云云とあり國人云愛敬寺は高田佐野にあり今は絶て寺院傳はらず

○胎蔵寺

同書に本山分末寺今熊山胎蔵寺云云六郷山定額院主目

録に今熊山胎蔵寺。院主明王院、徒八房。天明年中六郷山寺院名簿に田染郷熊野村胎蔵寺。島原領。山門末。一六所権現。一本堂。寄附高二石五斗。山林一町とあり。六郷山諸勤行注進目録に。本山分一大日石屋。本尊大日。五丈石身深山同尊種子岩切顕給也とあるハ。胎蔵寺の事なり。大日石屋も有書に田染とあり。稲主云。田染郷熊野村胎蔵寺ハ文珠仙寺両子寺長安寺につげる大寺なり。寺ハ山間高處にあり。

○光明寺

同書に中山分末寺。玉井山光明寺云云。六郷山定額院主目録に峯谷山光明寺。院主多福院拂田共十二箇所。高田、玉井、事光明皇后、祈願所右同断云などあり。此寺ノ事いまだ考へず。

○万福寺

同書に中山分末寺。吉水山万福寺云云。六郷山定額院主目録に。加礼川吉水山万福寺。院主弥山、徒之所嚴然分なく。吉水寺院主護國院徒呂十二房也。万福山。今号福昌寺。など見えたり。此寺ノ事いまだ考へず。重て考ふるに。吉水山万福寺ハ櫛海村にありて今ハ禅宗の洞家となる。竹田津の内なり。又豊前国宇佐郡両戒村の内に福昌寺と云もあり。是とハ別なるべし。

○弥勒寺

同書に中山分末寺。唐溪山弥勒寺云云とあり。弥勒寺ノ事いまだ考へず。重て按ずるに。唐溪山弥勒寺ハ城前村に應暦寺ノ末寺なり。

○多宝院

同書に、中山分末寺毘沙門多宝院云云とあり。多宝院の事ハいまだ考へず。（重て按ずるに定額院主目録に大岩屋院主金剛院、徒廿五ヶ所寺、有多宝院とある是か。大岩屋則中山なり。天明年中六郷山寺院名簿に應暦寺末寺多宝院在有寺村）

○九小野寺

同書に、中山分末寺九小野寺云云。六郷山定額院主目録に、良医山九小野寺。院主両子寺支配。御堂、徒六箇所。天明年中六郷山寺院名簿に、武蔵郷九小野村医王山九小野寺。杵築領、青蓮院末。一鎮守三所権現。一講堂薬師。十二神将。一附属庵、地蔵。寄附一段十二歩。高一石二斗七升八合三夕。山林境内一町四方などあり。此寺の事も重ねて考ふべし。

○平等寺

同書に、中山分末寺平等寺云云とあり。此等の事いまだ考へ得ず。（定額院主目録に真光寺、平等院、徒有三房、有之立石川辺阿弥陀院、守護とある。平等院とハ別なるか。なほよく考ふべし。）重て按ずるに、六郷山定額院主目録に、補陀落山千燈寺。嶺松院徒呂三十八ヶ所云云。来死海、薬師堂伊美、平等寺伊美、万徳寺神宮寺也とある是なり。國人云、平等寺ハ竹田津、内野田村にあり。小菴なり。

○真覚寺

同書に、中山分末寺真覚寺云云とあり。真覚寺の事いまだ

考へず。國人云。真覚寺ハ竹田津、野田村、内にあり。小菴なり。

○虚空蔵寺

同書に。末山分末寺。虚空蔵寺云云。六郷山定額院主目録に。
成佛寺。院主、文殊六五ヶ所。境内、共一也。虚空蔵愛染堂。別而
東光寺。院主別當顕持院。六郷山諸勤行注進目録に。中山分
一虚空蔵石屋本尊如名。修正月會。正月十三日。十虚空蔵講毎月十
三日勤之。ゆゑに天明、寺院名簿に。成仏寺虚空蔵堂などあり。
國人云。虚空蔵寺ハ成佛村にあり。成佛寺の末寺なり。

○麻田、報恩寺

同書に。末山分末寺。金剛山報恩寺云云。六郷山定額院主目
録に。麻田山報恩寺。号金剛山 院主大嶽任之人徒六箇所。天明年
中六郷山寺院名簿に。武蔵郷麻田村金剛山報恩寺。杵築領。
山門末境内有仲哀天皇神功皇后之陵。本尊弥陀三尊。一観
音堂正観音。一鎮守三所権現宮。一鐘楼門。除地田畑四段一
畝廿七歩。高四石六斗二升一合五勺。山一町三段内。三畝寄
附なども見えあり。

○吉祥寺

同書に。末山分末寺。吉祥寺云云とあり。吉祥寺、事いまだ考
へず。國人云。吉祥寺ハ飛来荘寺山村にあり。文殊仙寺の末
寺なり。

○貴福寺

同書に。末山分末寺。貴福寺云云とあり。貴福寺ノ事かさねて考ふべし。寺院名簿に。岩脇寺末寺貴福寺在同村とあり。田染郷横峯村なり。

○瑠璃光寺

同書に。末山分末寺。杉山。瑠璃光寺。天明年中六郷山寺院名簿に。両子寺末寺安岐郷杉山村杉山瑠璃光寺。杵築領。本堂薬師。鎮守三所権現宮山。神社。浄仙院寄附地八畝。山林五段などあり。

○安國寺

六郷山定額院主目録に。安國寺。院主浄蓮院徒十二ケ所于今仁王儼然とある。是とハ別か。なほ考ふべし。豊鐘善鳴録四巻に。豊後州安國寺鄂隠禅師。諱恵奯。筑後州人云云。晩節領豊之大陽山安國寺。寺則大将軍源公隆命所創絶海禅師為第一代也。師題勝音閣偈曰。

白華岩畔落潮音。近在階前碧水深。細柳秋高月如畫。幾人猶向海南尋。

示小師等観遊玉臺帰補陀曰。

金猊一吼五臺月。復去宝陀聴海潮。觸處若無杖頭眼。而城煙水路迢迢。

安國寺鐘銘に。豊之後州國崎郡武蔵郷大陽山安國寺。應永

年従沖絶揃於一茎艸。而星霜既向三百祀。實壽于名世之禅義也。數歴擾乱之間。而較微較衰。剎羅于鬱攸之災。寂而無有遺餘。幸存一巨鏞矣。悲乎時落于善州人之姦手。傳聴見在播之書寫山。而未如何之耳。焉後来雖寺才嘱一新。而力微不堪恢復矣。云云 旨享保六辛丑暦仲春吉且。築城養德實蓮溪華于寂中堂上。釈迦堂棟札に。國崎郡大陽山安國禅寺若云云。暦應二己卯歳敕六々刕。各建安國寺。是其一也。以佛智廣照浄印翊聖國師。為開山始祖。寺産云云。山門殿堂叢林所可有莫不備矣。和俗所謂七堂伽藍若也。有二十七八ケ末寺。輔之名跡猶存。成佛、休安岐、筧、横手、深見村等。為寺産之地。先代尚有典型。或勤歳首之賀。或納年末之貢。中古兵革之餘云云。享保廿一丙辰歳臘月上浣などあり。安國寺ハ武蔵郷安國寺村にあり。禅宗なり。小山ノ麓にして少し高處にあり。南向なり。釈迦堂焼失して佛ハ客殿に入たり。客殿入ッ五間。平七間あり。古ハ今ノ寺地の下に在て其辺をへて寺ノ境内なりしと云。又寺地に天神ノ社あり。鎮守ノ神なり。此社に祭祀料として領主より高三斗寄附あり。此寺天正ノ乱に焼れて絶たりしを。後に今ノ地に建立しありと聞ゆ。此國ハ諸宗ともに中比妻帯となりて。郡役をも勤めたりしを。漸く寛文の比に至て今の如く清僧と成て。本山をも定めありと。此寺の境内に石風呂と云ものあり。大石にして中のくぼかなる物なり。いにしへ繁昌

（の時ハ是ニ湯を入てあびるなりと云。）

泉福寺

豊鐘善鳴録三巻ニ、無著禅師諱妙融、族氏日野、隅州人云云。永和初年、豊州国崎有尼無傳、乃郡守平正晴（田原氏称下野守）母也。欽師芳猷、特請受禅戒、礼謝曰、弟子為師営伽藍、冀擇其地、師乃過一山曰、此處恰好、唯歎無水耳、時有一童子手執如意来、指地曰、者裏有水、言訖忽没、師知是妙吉、向其所指處、一卓拄杖、清泉随涌、色如白乳、今文珠泉也、遂創宝坊、扁曰如徳山泉福寺、誌聖蹟也、同書二巻ニ、豊前州天徳寺大菴禅師諱呑舟、本州上毛郡山田村人云云。寛永初、永平馳价、憑豊守細川忠興、将斂取泉福所蔵芙蓉法衣、官議将先焉、師聞之憤然曰、乃申訟曰、此衣是総持正傳、而吾祖無著所承無外之物也、豈可以勢取乎、若剛奪之、其當以命代焉、官議遂止、此衣至今鎮泉福者、師之力也、師毎作務、有河伯来助其労、然傳人莫覩焉、今之寺前石泉、是其績也、なとあり。泉福寺ハ国崎郷横手村ニあり。曹洞宗にして能登国総持寺末寺なり。辰巳午に向ひて立て、七堂盡く備ハれり。（諸堂山門皆蓋葺なり。）東北聊高き処ニ鎮守秋葉社あり。（社造りざま甚厳重なり。鳥居二所にあり。）塔中五院あり。（墎外ニあり。）帝釈寺、本護寺、永照寺、浄土寺、利生寺、是を役寺と云。末院八十八箇寺あり。末院内より輪番ニ是を勤むといへども、役

寺より年番に事を執行ふ由なり。寺産十六石余、杵築領主より寄附あり。境内芝広く。人家なども多くあり。山林はめぐり一里あり。山林は造営料と聞ゆ。門前に杉馬場あり。古木多く生ひ茂り。此寺も中絶しありしを。細川家の時今の如く再興せりと云。永勝寺の後少し高き処に。無伝尼公の墓と云物あれども。故老の説に実物にあらずと云。

○興導寺

豊鐘善鳴録五巻に。釈豪盛豊後州人云云。住本州国東興導寺。寺則洛東六波羅密寺空也上人遊化此邦而所草創也。寺有地蔵霊像。盛常帰敬礼讃匪懈。天正乙亥臘月小盡初夜詣像持念仏燈。驀隇驟雨瀟然。時有一雛僧。然燈来焉。盛歓接點燈。回首而視其僧。忽失所在。盛少選帰室。適就支院。尋之不得。翌早起詣像前。見席有跡。検視尊像其足塗泥。因知疇昔然燈者即斯大士也。盛信感倍篤。精修益至。遠近士庶聞之驚異憧々来礼。自爾世称之然燈地蔵。宝永年中。杵築府主源浄山居士。聞盛常蒙霊感。請像到武府私第。崇奉供養。数年之後還安于興導寺。而寄腴田及霊宝許多種焉。六郷山定額院主目録に。興満山興導寺。徒六箇所。天明年中六郷山寺院名簿に。国崎郷興導寺村興満山興導寺。杵築領。山門末。天徳三年建立。開山空也上人。鎮守正八幡宮。国崎一郷之宗廟。拝殿。神楽屋。御輿屋。惣門。御供屋。回廊。鐘楼。若宮。末社宮。外五社。一弥勒堂。

一本堂釈迦、一講堂、一大日堂、社領高八石、境内一町四方、寺
領高十石、境内一町四方なと見えたり、興導寺ハ櫻八幡宮
の別當職なり、客殿ハ南向、庫裡ハ西向なり、末院二坊あり、
與導寺村一村中の臧罷ハ末院西之坊是をつとむ、火とも
しの地蔵ハ秘佛にて、三十三年に一たび開帳も、

○奈多報恩寺

豊鐘善鳴録一巻に、客室禅師、諱正機、生于木州、参直翁禅師、
得単傳肯、溯岫雲山報恩寺于國東郡奈多村、自撰巨鰲丘待
月松等之八勝、投示禅衆云々、注文南禅義堂寄題報恩慕軒贈
寺主岳中詩、
道中舊徳海之西、圖画天開面々幽、一衆飛来靈鷲嶺、三
峰□作巨鰲丘、雲還出岫時々雨、月自當松夜々秋、雙眼
寄君千里去、暮山横處是吾州、
報恩寺ハ禅宗にして、安岐郷奈多村にあり、

○大光寺

豊鐘善鳴録四巻に、定山禅師、諱祖禅云々、受豊州田原氏請、
創朝陽山大光寺于武蔵郷、立為開山とあり、大光寺ハ禅宗
なり、定山禅師ハ應安七年に没せり、

○多福寺

豊鐘善鳴録三巻に、古心禅師、諱融徹、世譜源姓、江田巨族佐
々木氏子云々、應永甲戌遊旋豊州礼普門塔、到来縄郷、創立

多福以月谷称開山。自居副貳とあり。多福寺ハ禅宗□派
なり。
○施恩寺
豊鐘善鳴録一巻に。南溟禅師。諱殊鵬。豊後州田原府主藤貞
廣大友族。称田原豊前刺史子也云云。帰豊視篆実際宝院。尋開施恩寺于
香地。掲諦菴于都宇岡。とあり。南溟ハ康安元年に没せり。施恩寺いまだ
考へず。
○萬弘寺
豊鐘善鳴録一巻に。豊後州万歳山豊山禅師。諱正義。本州人
云云。初視篆國東宝陀寺。歴徒実際万壽之両刹。玄学蛾慕得
益者多。自後應冨来正壽居士請。創万歳山万弘寺。應永元年
二月三日示滅。塔曰冨光。隆國府報恩田染郷安養二寺共係
師之柿草也とあり。万弘寺ハ冨来村にあり。万弘寺ハ南向
にして。本尊佛殿ハ釈迦如来なり。両脇ハ阿難迦葉達磨大
権現なり。寺の本尊ハ聖観音なり。本堂ハ。入六間に。横九間
なり。鐘楼あり。此寺の喚鐘今ハ美濃の谷汲にありと云。
○安養寺
豊鐘善鳴録一巻に。豊後州万壽山豊山禅師云云。田染郷安
養二寺共係師之柿草也とあり。安養寺ハ禅宗□派より
て□村にあり。

○宝陀寺

豊鐘善鳴録四巻ニ、悟菴禅師、諱智徹云云、住州之田原府清水寺、一夕夢神人告曰、悟菴禅師即正法明如来應化也、汝冝建刹邀延焉、寤而異之、語諸府主左近将監藤直平、大友族田原氏、直平歎曰、我夢亦爾、遂廣地建寺、革教為禅、請師為開山祖、即幡龍山宝陀寺是也、師居之十七年、丕張法席、陶冶学者、同書一巻ニ豊後州万歳山豊山禅師初視篆国東宝陀寺云云、六郷山定額院主目録ニ、班龍山清水寺、院主傳乗寺、徒なとあり、是とハ別り。

○實際寺

豊鐘善鳴録四巻ニ、自聞禅師、諱ハ正聡、慧光ハ其字也、兵部卿守良親王子、或曰江州人、云云、礼仁聞聖蹟、遊渉金胎興龍密寺廃址、観其形勝、啓心創立、時州守藤氏泰、大友氏、割捨金貝膏腴、助営資給、殿堂周備、欝為望刹、師名山曰海印、寺曰加号実際、居之二十餘年とあり、海印山実際寺ハ国東郡中園村ニあり。

○大聖寺

六郷山定額院主目録ニ、治地山大聖寺云云、天明年中六郷山寺院名簿ニ、国崎郷来浦村治地山大聖寺、杵築領、山門末、後村上天皇延文三年戊戌建立、開山宗慧上人、一本堂、一鎮守春日大神、一末社堂十三、寄附高三石八斗七升九合なとあり、大聖寺ハ天正十八年二月八日ノ夜、類火ニ依て一字も残

らバ焼失して。佛体并旧記、類多くやけうせたりと云。大聖寺ハ来、浦八幡宮、別當なり。此寺に二階道左京進主従の位牌ありといふ。事のさけハ七、巻来、浦八幡宮の件に委く云る。

○萬徳寺

六郷山定額院主目録に云云。伊美、万徳寺。天明年中六郷山寺院名簿に。新涯村嵩宮山万徳寺。山門末。公領。境内赦免地高一石一斗三升七合。山林四段。一鎮守別宮八幡大菩薩。祭礼六度。社領田七段一畝十三歩半。高十石七合二勺。篠藪二段四畝。一伊美崎権現藪二段。末社七。末堂二。など見えたり。

圓福寺

國崎郡高田栄崎村海門山円福禅寺、綸旨に。大徳龍翔円福等、事寺領失墜佛閣荒廃之條、所被驚思食也。殊被専三寺之興隆、可祈四海安全給者。天氣如此。仍執達如件。八月四日。徹翁和尚禅室。左中将時光とあり。（此綸旨ハ大徳寺にあり。後円融院、此の綸旨なり。徹翁ハ大徳寺二代の住僧なり。）方丈南向。（七間半。）本尊釈迦如来。傍佛文殊普賢なり。開山ハ円通大應國師南浦紹明大和尚なり。周防國山口大内弘政の時。志手村八丁四方を賜ありて七堂伽藍を造る。又寺領百貫文喜捨有て住僧十四代まで参内せり。さるを大友家滅亡の後寺を焼れて絶たりしを松平丹波守

城地を寺地として今地を施入せられたりと云。

○大日寺

同書に威霊山大日寺。院主高山。徒也とあり。六郷山諸勤行注進目録に。本山分一大日。石屋。本尊大日。五丈。石身深山同尊種子岩切顕給也。とある石屋は此寺を云か。なほよく考ふべし。重て按ずるに。大日。石屋は熊野の胎蔵寺にありて。この事にはあらじ。

豊後志後序

我伊藤大人弱草能若加理志時与理許多乃史籍等佐礼多類中尓是能管内志与最々毛々大業尓志弖巻乃員波八十巻尓及比邦乃數十餘一國尓至留此國々尓志弖由縁有限波生挑乃落事奈久書集良礼多留其中尓毛筑紫乃道能豊國乃道能口此二國佐弖波豊國乃道能後之國志序加都加都成竟多留止往来大人毛語良礼多利支加久

弖此豊國乃道能後乃地志波風土説乎權輿登志
弖後世乃書毋種々有米礼抒如此許古徵乎正久
引出弖今能現乃地理尓悊敝弖考出多留波有自
加志自今以後茲籍乎基本止志弖継々尓考敝以
行婆神乃秀倉毛搒乃随意知布古諺乃如久終尓
波天雲尓進理立多留秀倉尓毛騰利就而無上寶
乃極見留信伎爲介引居良礼多留千引乃磐能礎
波是乃書曽毛是能巻々曽毛加此称須波

天保十二年十一月

吉村千春

日本政府圖書

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan